

4-1 社会学

研究・教育活動の概要と特色

専門分野・社会学は、文学部発足当初から、全国的な社会学研究および教育の拠点として長い伝統をもっている。理論研究とくにテキストを詳細に読み解く学説研究に定評がある。この伝統をふまえつつも、近年は現代社会の実証的な分析に力点をおき、理論研究と、おもに質的なデータに依拠する実証研究との統合をめざしている。長谷川教授は本研究科を中心とするグローバル COE の一翼を担っている。長谷川教授は温暖化問題のメディア報道と政策立案過程に関する、16ヶ国以上が参加する国際比較研究の日本チームのリーダーを務めるとともに、2014年に横浜市で開催される世界社会学会議の組織委員会委員長を務めるなど、国際共同研究や国際発信を重視している。正村教授の情報やコミュニケーションに関する研究、長谷川教授の環境社会学、社会運動に関する研究、永井教授のハーバマスおよび地域福祉に関する研究、下夷教授の家族や家族福祉に関する研究は、既存の研究動向に関する詳細な文献研究とそれぞれのフィールドでの実証研究をふまえた、独創性に富んだ高水準の理論的な研究として国内外の高い評価を得ている。

教育においては、とくに外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。課程博士の学位取得者の割合もきわめて高い。

研究室員は、行動科学・心理学・哲学などの隣接専門諸分野と連携して、国際的および全国的な研究交流をはかりながら自由闊達に切磋琢磨している。

I 組織

1 教員数 (2013年7月末現在)

教授：4

准教授：0

講師：0

助教：1

教授：正村俊之、長谷川公一、永井彰、下夷美幸

助教：木村雅史

※ 尚、2009年11月から2010年5月まで清水晋作が、2010年6月からは木村雅史が研究助手、助教(2011年6月～)を務めている。

2 在学生数 (2013年7月末現在)

学部 (2年次以上)	学部研究 生	大学院博士前 期	大学院博士後 期	大学院研究生
54	1	10	7	0

3 修了生・卒業生数 (2009～2013年度)

年度	学部卒業者	大学院博士課程前 期修了者	大学院博士課程後期 修了者 (含満期退学者)
09	18	1	0
10	14	3	3
11	16	1	1
12	14	2	0
13	0	0	0
計	62	7	4

*2013年度は、7月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2009～2013年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	0	0	0
10	4	0	0
11	1	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	5	0	0

*2013年度は、7月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

大友康博、2010年度、『都市空間の再編をめぐる「脱場所化と再場所化」』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、
教授・鈴木岩弓、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

古平浩、2010年度、『地方鉄道経営と市民協働のあり方——社会資本のガバナ
ンスと社会的企業の方向』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、
教授・沼崎一郎、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

笹島秀晃、2010年度、『「都市の美学」の条件——1970年代以降の都市をめぐ
る「生産」・「経験」・「権力」についての都市社会学的考察』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、
教授・佐藤嘉倫、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

本間照雄、2010年度、『社会関係の再構築としてのケア改革』

審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、
准教授・辻本昌弘、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

泉啓、2011年度、『ハーバーマスにおける秩序の未完性の理解——同時代史
を背景とした考察』

審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・正村俊之、教授・座小田豊、
准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	0	0	0	0	0
10	4	0	1	1	6
11	2	0	1	0	3
12	2	1	0	0	3
13	3	0	0	3	6
計	11	1	2	4	18

*2013年度は7月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	3	5	0	0	8
10	4	14	6	2	26
11	1	6	0	2	9
12	5	4	1	0	10
13	0	8	1	0	9
計	13	37	8	4	62

*2013年度は7月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

安達智史「ブリティッシュネスの解体と再想像——ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」, 『社会学年報』39号, 2010.

板倉有紀「災害現象への社会的アプローチにおける「ヴァルネラビリティ」の視点——災害弱者問題の実践的課題に向けて」『社会学研究』88号, 2010.

板倉有紀「災害研究の展開と「女性の視点」——東日本大震災と「ヴァルネラビリティ」概念」『社会学研究』93号, 2013.

板倉有紀「東日本大震災における「支援」と「ケア」——「ニーズの多様性」と保健師職能」『社会学年報』42号, 2013.

泉啓「『危機』とハーバーマス近代社会論——不法性のユートピアをめぐって」, 『現代社会理論研究』6号, 2012.

泉啓「50年代ハーバーマスにおける時代批判と秩序の思想——時事論、小論に基づく考察」, 『社会学研究』91号, 2012.

上田耕介「書評：前山総一郎著『直接立法と市民オルタナティブ——アメリカにおける新公共圏創生の試み』」, 『社会学研究』92号, 2013.

大井慈郎「東南アジア首都郊外インフォーマルセクター——インドネシアの露天商を事例に」, 『社会学年報』42号, 2013.

木村雅史「E・ゴフマンの「状況の定義」論——『フレーム分析』の検討を通して」, 『社会学研究』88号, 2010.

- 小杉亮子「1960年代アメリカの学生運動の形成要因——バークレー闘争を例に」,『社会学年報』41号,2012.
- 土田久美子「日本留学は学生の『人間開発』に寄与するか」(竹中歩との共著)『移動の時代を生きる——人・権力・コミュニティ』東信堂,2012.
- 中川恵「地域支援型農業と持続可能な地域づくり——地域が支える『鳴子の米プロジェクト』から」『社会学研究』90号,2012.
- 本間照雄「沿岸部被災地における被災者支援の現状と課題——南三陸町の現場から」『社会学研究』92号,2013.
- 牛渡亮「青年スクエア・ホールの文化政治論——カルチュラル・スタディーズの原問題」,『社会学研究』87号,2010.
- 牛渡亮「スクエア・ホールのサッチャリズム論——イギリス新自由主義における退行的近代化と権威主義的ポピュリズム」,『社会学研究』89号,2011.
- 牛渡亮「スクエア・ホールのモラル・パニック論——1970年代の逸脱をめぐるメディア報道と新自由主義の台頭」,『社会学年報』42号,2013.

(2) 口頭発表

- Adachi, Satoshi "On the Function of Britishness on the Social Integration in Britain", Equal Opportunity International, Bosphorus University, Istanbul, 19 July 2009.
- Adachi, Satoshi "Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims," Asia Pacific Sociological Association, 2010.
- 安達智史「社会統合政策の比較社会学——国民国家およびグローバリゼーションのインパクト」,第60回関西社会学会大会,京都大学,2009年5月23日.
- 安藤愛英「平成以降の防災教育の変遷——学習指導要領を中心とした考察」,第60回東北社会学会大会,2013年7月21日.
- 岩尾紘彰「ハーバーマスの「体系的に歪められたコミュニケーション」概念——1974年および1981年のテキスト比較研究」,第60回東北社会学会大会,2013年7月21日.
- 上田耕介「社会学理論における「暴力」の欠如と理論化の試み」,第60回東北社会学会大会,2013年7月21日.
- 保良康平「日本における情報概念の歴史的変遷と社会構築」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.

本間照雄「災害ボランティア活動の充実と不具合」, 第 60 回東北社会学会大会, 2013 年 7 月 20 日.

磯崎匡「優生政策におけるハーバーマスの理論の応用と展開について」, 第 59 回東北社会学会大会, 2012 年 7 月 16 日.

Isozaki, Tadashi "Importance of communication in risk society," Tohoku-Stanford Annual Conference, Stanford University, California, America, 18 June 2013.

板倉有紀「災害研究におけるヴァルネラビリティ概念の整理と射程——リスクへの視座をめぐって」第58回東北社会学会大会, 2011年7月18日.

板倉有紀「津波被災地における健康リスクと保健師職能——ヴァルネラビリティとの関連から」第86回日本社会学会大会, 2013年10月12—13日.

板倉有紀「災害研究における「女性の視点」論——「リスク」・「ヴァルネラビリティ」との関連から」第60回東北社会学会大会, 2013年7月21日.

板倉有紀「東日本大震災以後の社会理論の課題——リスクと機能分化」へのコメント」2013年度東北社会学研究会大会の討論者, 2013年10月19日.

泉啓「危機とハーバーマス批判理論——前衛的介入者の二面性という視点」, 第 6 回日本社会学理論学会, 2011 年 9 月 4 日.

木村雅史「ゴフマンの『人- 役割図式』論」, 第 49 回日本社会学史学会, 2009 年 6 月 27 日.

木村雅史「相互行為秩序分析の基礎視角——『フレーム分析』の検討を通して」, 第 61 回関西社会学会大会, 2010 年 5 月 30 日.

小杉亮子「『新しい社会運動』とアイデンティティ」, 第 56 回東北社会学会大会, 2009 年 7 月 20 日.

小杉亮子「学生運動の形成過程と要因——Free Speech Movement の分析をもとに」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.

小杉亮子「1960年代学生運動再考」, 第86回日本社会学会大会, 2013年10月12-13日.

Kosugi, Ryoko, 2011, "Comparative Study of Student Movements in Japan and the U. S. in the Sixties," the 106th Annual Meeting of the American Sociological Association (Hope and Despair as Socio-Political Phenomena Session), Caesar Palace Hotel, Las Vegas.

Kosugi, Ryoko, "Japanese Student Movements in the Global 1960s: Encounter of the Local Context and the Transnational Context," the 2nd ISA Forum of Sociology (RC47, "Forms of Social Justice: Localism and Globalism in Asian Context,"

Oral Presentation), University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August 2, 2012.

中川恵「地域サポーターの媒介機能と鳴子の米プロジェクト」, 第56回東北社会学会大会, 2009年7月20日.

中川恵「Community Supported Agriculture (CSA) と提携(Teikei)」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.

中川恵「地域支援型農業と持続可能な地域づくり」環境社会学会大会, 2011年6月4日.

中川恵「日本版 CSA の類型と展開可能性」第58回東北社会学会大会, 2011年7月18日.

中川恵「地域支援型農業の展開——宮城県大崎市・鳴子の米プロジェクト」第84回日本社会学会大会, 2011年9月17日.

Nakagawa, Megumi, 2011, "Community Supported Agriculture (CSA) from environmental sociological perspective a case study of "Naruko no Kome project (a rice farming project in Naruko hot spring areas)," IFOAM-OWC プレカンファレンス 2011年9月26日.

Nakagawa, Megumi, 2012, "Think about the agricultural strategy in Japan", International Rural Sociology Association, Lisbon, Aug 4, 2012.

西山宝恵 「パーソンズの『理論』をめぐって——F・ブリコーのパーソンズ解釈から」, 東北社会学会第56回大会, 2009年7月20日.

ニ・ヌンガー・スアルティニ 「日本人女性の国際結婚における新たな展開——バリ島における日本人女性とインドネシア人男性との事例から」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月20日.

ニ・ヌンガー・スアルティニ 「国際離婚に関わる慣習の問題——インドネシア・バリにおける日本人女性のライフストーリーから」, 第58回東北社会学会大会, 2011年7月18日.

ニ・ヌンガー・スアルティニ 「ライフスタイル移民と国際結婚——インドネシア・バリ島における日本人女性の事例から」, 第59回東北社会学会大会, 2012年7月16日.

Shimizu, Shinsaku "Sociological Neoconservatism and Intellectual Networks in New York Intellectual Society", 39th World Congress of International Institutes of Sociology, June 13, 2009.

Suartini, Ni Nengah, "Lifestyle Migration and Cross-cultural Marriage: The case of

- Japanese Women's Cross-cultural Marriages in Bali Indonesia“, The 11th Asia Pacific Sociological Conference 2012, Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Oct. 22th, 2012.
- 大井慈郎 「インドネシアIndustrial Estatesにおける都市的機能の考察」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.
- 大井慈郎 「アジアメガシティのインドネシアにおける展開——ジャカルタ拡大首都圏のIndustrial Estatesを事例に」, 第83回日本社会学会大会, 2010年11月6日.
- Ooi, Jiro, 2012, “Suburbanization and disappearing Community in Indonesia: From the perspective of migration and wage increase”, The 11th Asia Pacific Sociological Conference 2012, Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Oct. 22th, 2012.
- 大井慈郎 「インドネシア首都郊外住民とはだれか——職業と賃金からの考察」, 第85回日本社会学会大会, 2012年11月3日.
- Sasajima, Hideaki, 2010, "Changing Relationship between the Local Authority and Nonprofit Art Organizations in Creative City Yokohama after the Crisis", XVII ISA World Congress of Sociology (RC21.02 “Creative Cities” after the Fall of Finance"), Gothenburg, Sweden.
- 土田久美子「エスニック集団間の連携：日系アメリカ人コミュニティを事例として」名古屋大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校共同シンポジウム, 2011年12月16日・17日.
- Tsuchida, Kumiko, "Community Rebuilding and the Stories of the Internment: A Case Study of "Day of Remembrance" in L.A. Japanese American Community," at International Institute of Sociology 38th World Congress, at Yerevan State University, Armenia, June 12, 2009.
- Tsuchida, Kumiko, “Memories and Social Identities in Mobilization Process: Field study of the Japanese American Reparation Movement", The 8th Society for the Psychological Study of Social Issues Biennial Conference, June 25, 2010.
- 牛渡亮 「スチュアート・ホールのサッチャリズム論——新自由主義と上部構造の自律性」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.
- 牛渡亮 「スチュアート・ホールのモラル・パニック論——逸脱・メディア・「法と秩序」」, 第58回東北社会学会, 2011年7月17日.

牛渡亮 「スチュアート・ホールの教育論」, 第59回東北社会学会, 2012年7月16日.

安田理人 「発達障害児・者の保護者による社会運動」, 第56回東北社会学会大会, 2009年7月20日.

安田理人 「『障害の社会モデル』の諸類型」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.

3 大学院生・学部生の受賞状況

今野麻紀子 平成21年度東北大学総長賞(卒業論文『日本映画でみる母親像』)、2010年3月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2009年度 0名

2010年度 PD採用1名、DC採用1名

2011年度 0名

2012年度 DC採用1名

2013年度 0名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

09年度 大学院 計1名 ニューヨーク市立大学大学院(アメリカ合衆国)

10年度 学部 計2名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校(アメリカ合衆国)

11年度 学部 計1名 カリフォルニア大学デイビス校(アメリカ合衆国)
大学院 計1名 ハーバード大学、イェンチン研究所(アメリカ合衆国)

12年度 学部 計3名 ウーメオ大学(スウェーデン)、カリフォルニア大学バークレー校(アメリカ合衆国)、リヨン第2大学(フランス)

13年度 学部 計1名 復旦大学(中国)

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	3	0	3
10	3	1	4
11	2	2	4
12	2	0	2
13	1	2	3
計	11	5	16

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	1	0	1
12	1	0	1
13	0	0	0
計	2	0	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

計6名

- 09年度（D 修了） 伊藤嘉高 山形大学大学院医学研究科 助教
- 09年度（D 修了） 高橋雅也 大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科 講師
- 09年度（D 修了） 田代志門 東京大学大学院医学系研究科 GCOE プログラム 特任助教
- 10年度（D 修了） 菱山宏輔 鹿児島大学法文学部 准教授
- 10年度（D 修了） 土田久美子 東北大学国際高等融合領域研究所 助教
- 10年度（D 修了） 清水晋作 盛岡大学文学部 准教授
- 10年度（D 修了） 本郷正武 和歌山県立医科大学医学部 専任講師
- 11年度（D 修了） 齊藤綾美 八戸大学ビジネス学部 専任講師
- 12年度（D 修了） 笹島秀晃 大阪市立大学大学院文学研究科 専任講師

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員1名、報道機関5名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

1名（2010年度）

10 刊行物

『2008年度社会調査実習A班報告書 エコブーム——エコバッグと現代社会、仙台市を事例に』2009年2月.

『2008年度社会調査実習B班報告書 男女共同参画と育児と就業——現代社会にみる男性の育児参加』2009年2月.

『2008年度社会調査実習C班報告書 仙台・宮城DCを通して考える観光の変化——宮城県南三陸町の事例』2009年2月.

『2009年度社会調査実習報告書 生活実態調査からみる蔵王町の現状と課題——維持可能なコミュニティをめざして』2010年2月.

『2011年度社会調査実習報告書 社会問題の社会学』2012年3月.

『2012年度社会調査実習報告書』2013年3月.

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2009年10月24日）

2010年度 東北社会学学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2010年10月16日）

2011年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2011年10月15日）

2012年度 東北社会学会事務局

東北社会学研究会事務局

福祉社会学会開催校（2012年6月2日、3日）

日本学術会議シンポジウム開催校（2012年7月29日）

東北社会学研究会大会（2012年10月6日）

2013年度 東北社会学会事務局

第60回東北社会学会大会開催校（2013年7月20日、21日）

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2013年10月19日）

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2008年度 社会学特別講演（2008年10月12日）

2010年度 社会学特別講演（2010年11月27日）

2012年度 社会学特別講演（2012年11月10日）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

行動科学研究室などとともに本専攻分野は、21世紀COEプログラムに引き続き、吉原教授・長谷川教授が事業推進担当者として、正村教授が研究協力者として、本研究科を中心とするグローバルCOEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」の一翼を担っており、多数の大学院生がGCOE大学院生、GCOEフェローとして、同プログラムを支えている。2003年度に21世紀COEプログラムがスタートして以降、とくに行動科学・心理学・文化人類学・宗教学・哲学・教育社会学などの隣接専門諸分野との連携を強めている。GCOEプログラム以外でも、教員や院生の研究関心に応じて、建築学・地理学・環境学・医学・薬学・情報学など、総合大学としての強みをいかして、文学研究科内にとどまらない全学的な研究交流を活発に行っている。本専攻分野の教員はいずれもそれぞれの専門分野で全国学会・全国的な研究組織のリーダー的存在であり、各種の審査委員・評価委員などを務めている。大学院生も全国学会をつうじた交流はもちろんのこと、薬害エイズ問題について全国的な調査研究のネットワークに参加するなど、研究テーマに応じて、主体的に全国の研究者と研究交流を行っている。

また21世紀COEプログラムの開始と前後して、吉原教授およびその指導院生が東南アジア、インドネシアの地域住民組織に焦点をあてて、長谷川教授およびその指導院生が米国やオランダ・ドイツの研究者と環境問題や市民活動に関して、現地でフィールドワークを行うなど、国際的な共同研究や海外での学術調査もさかんに

行っており、英語での著作の刊行や英語での研究報告も積極的に行っている。正村教授の著書は、日本社会学の名著シリーズの一冊として中国語訳が刊行されている。教員・大学院生による国際的なネットワークづくりも活発である。学部生・大学院生も積極的に海外に留学している。留学経験などをもとに、国連職員などの国際公務員をめざす院生や卒業生も増えている。長谷川教授は、日本社会学会世界社会学会議組織委員会副委員長として、2014年に横浜開催が決定した国際社会学会の世界社会学会議の招致に尽力し、大会の成功に向けて、内外で奔走している。このように、日本の社会学界の積年の懸案である国際化・国際発信という点では、日本の社会学研究室の中でトップ水準にあるといえる。

文献研究においても、2011年4月に学位を得た博士論文に結実した永井教授のハーバマス研究に代表されるような、本研究室のすぐれた伝統でもある緻密なテキストクリティークに依拠して内在的な理解をめざす方法に加えて、2005年3月末に定年で退職した高城和義教授の指導のもとで、未刊行文献を積極的に渉猟し、研究者の全体像をその生涯にわたって描き出そうという野心的な研究も展開されている。理論研究という面では、正村教授も、独自の情報概念を基にして現代のグローバル社会を解明する研究を行っている。さらに、高城和義教授の後任として2007年度に着任した下夷教授は、日本の家族とその歴史を幅広い視点から捉え直す実証的研究を行っており、下夷教授の着任によって社会学研究室の体制は一層充実した。下夷教授は2009年度の東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）を受賞している。

なお吉原教授は、大妻女子大学に転出し、定年1年前に2011年3月末で勸奨退職した。教育・研究上の必要上からも、准教授以上の教員5人体制に早期に復帰することが求められている。

本研究室はおもに東北地方を対象とする農村調査でも従来多くの成果をあげてきたが、吉原教授が東北都市学会を組織し、中心となって『東北都市事典』を編集したほか、永井教授も高齢者ケアに焦点をあて、東北地方や中部地方、沖縄県などをフィールドとして地域福祉に関する研究を行っている。長谷川教授は青森県六ヶ所村のむつ小川原開発・核燃料サイクル施設問題の研究を続けるとともに、北海道・東北地方の市民出資による「市民風車」プロジェクトの国際比較研究を行っている。

本研究室では吉原教授が『災害の社会学』を編集するなど、社会学的な災害研究の蓄積を有してきたが、東日本大震災の発生に対応して、正村教授は社会情報学会や日本社会学会、東北社会学会における震災関連プロジェクトの中心リーダーの1人として、学会大会での特別セッションの企画・司会などとして活躍し、長谷川教

授も、南三陸町の復興過程について事例研究を開始するとともに、震災問題および原発震災に関する論文・著作をつうじて社会的発言を行い、また韓国・台湾でこの問題に関して招待講演を行っている。院生の板倉は、東日本大震災をふまえた災害リスクと地域社会に関する博士論文を執筆中であり、2011年度の卒論においても約4割は、東日本大震災からの復興や防災・減災、震災体験の記録化などを扱っている。

本研究室の教員は専門分野に関連する政府・地方公共団体関係機関等の委員等を数多く務めるほか、特定非営利法人の役員などとしても地域社会に貢献している。

教育においては、とくに英語・ドイツ語の外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。社会学実習は、とくに聴取などの質的調査に重点をおいているが、調査の企画から実査、報告書の刊行まで受講生自身の主体性を重視している。社会学実習の調査報告書は、教員・院生の指導・助言のもとで受講生自身が執筆し、ほぼ毎年刊行している。

課程博士の学位取得者は通算で22人、この5年間では11人にのぼっている。とくに小松丈晃が2000年度に提出した学位論文は『リスク論のルーマン』（勁草書房）として2003年7月に刊行され、帯谷博明が2002年度に提出した学位論文『河川政策の変遷と環境運動の展開——対立から協働・再生への展望』も『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生——対立と協働のダイナミズム』（昭和堂）として2004年10月に刊行され、本郷正武が2003年度に提出した学位論文『「良心的支持者」概念の理論的展開——HIV/AIDSをめぐる集合行為のフレーミング分析』も『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』（ミネルヴァ書房）として2007年2月28日に刊行され、いずれも好評を博した。とりわけ2002年3月に刊行された李妍焱の『ボランティア活動の成立と展開——日本と中国におけるボランティア・セクターの論理と可能性』（ミネルヴァ書房）は、第1回日本NPO学会研究奨励賞・第2回生協総研「研究賞」を受賞した。齋藤綾美の課程博士論文『インドネシアの地域保健活動の成立と展開——地域社会から見た「開発の時代」』も、2007年度の東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）を受賞している。

このように本研究室の課程博士論文は質の面でも全国的に高い評価を得ており、学位取得者のほとんどは、公募で大学などの研究職についている。青木聡子が2006年10月1日付けで名古屋大学の講師として採用されたほか、奈良女子大学のような有力大学、大妻女子大学や駒澤大学、立正大学などのような首都圏の私立大学、東北学院大学などで公募によりポストを得ている。大学院生の出身大学は、京都大学・一橋大学・大阪大学・筑波大学・広島大学・金沢大学・静岡大学・東京学芸大

学・信州大学・新潟大学・早稲田大学・中央大学・法政大学・立命館大学（順不同）など全国にわたっている。

近年は、法科大学院の新設などにもなって、本専修分野内で学部から大学院にすすむ「内部進学者」が減っており、内部進学者の確保が大きな課題となっている。仙台にあるという立地条件にも規定され、本専修分野の研究および大学院教育に関する専門家レベルでの評価はきわめて高いが、その割には大学院受験者が増えないという悩みを抱えている。

課程博士の学位取得者は着実に増えており、その質も全国的にみて高い水準にあるということは、本専修分野出身の中堅の研究者にもよい刺激を与えており、論文博士の学位をもとめて、長年の研究成果をまとめ、本研究室に学位論文を提出する者も増えている。本研究室に提出された学位論文の中には、永野由紀子『現代農村における「家」と女性』（刀水書房,2005年）のように、学会賞を受賞した作品もある。

東北社会学研究会の事務局は本専攻分野の研究室にある。ともに全国学会である東北社会学会・東北社会学研究会の運営を長年にわたって実質的に支えてきたのは、本専攻分野の教員・助手・助教・大学院生であるといつて過言ではない。近年は、『社会学研究』が半年刊になるなど、学術雑誌の発行も順調にすすんでいる。

本専攻分野は、卒業生の主な就職先、卒論・修論・博論の表題一覧、所属院生の研究テーマや大学院志望者へのアドバイスを含み、独自のウェブサイトをもっており、内容の充実度は高い。吉原・正村・長谷川教授も研究活動などを紹介するウェブサイトを設置・運営しており、研究内容などの発信につとめている。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

吉原直樹 「アジア・メガシティとポスト・グローバルシティの位相」西川長夫・高橋秀需編『グローバリゼーションと植民地主義』人文書院，pp.215-233. 2009.

吉原直樹 「地縁再考——創発的な場所理解に向けて」近畿大学日本文化研究所編『日本文化の美と醜』風媒社，pp.256-273, 2009.

吉原直樹 「町内会における諸問題の解決法に関する一考察」（共著），『ヘスティアとクリオ』8号，pp.19-51,2009.

吉原直樹 「バリにおける日本人社会と多重化する情報環境」（共著），『東北

- 大学文学研究科研究年報』第 59 号, pp.84-126,2010.
- Naoki YOSHIHARA “Where has the people’s safety in the borderless society gone?,”*Procedia-Social and Behavioral Sciences*,2,pp.24-27,2010.
- 吉原直樹 「コミュニティへの多角的な問いかけ」,『東北都市学会研究年報』10 号, pp.39-56,2010.
- 吉原直樹 「移動研究のフロンティア」, M.フェザーストンほか編著, 近森高明訳『自動車と移動の社会学』法政大学出版局, 2010,pp.437-448.
- 正村俊之 「数理的研究と非数理的研究の相補性」,『社会学年報』38号, pp.43-47,2009
- 正村俊之 「ジンメルと近代的思想圏——原理論・方法論における第三の立場」,『社会学研究』87号, pp.30-68,2010
- 正村俊之 「ジンメル理論の革新性——デュルケーム、ウェーバーとの関連において」,2010
- 正村俊之 「グローバル資本主義への視座」,『学術の動向』第 16 巻第 4 号 pp.36-41,2011
- 正村俊之 「『社会と個人』の根源にあるもの」『社会学史研究』第 33 号, pp.59-71,2011
- 正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』(西田豊明・小方孝・野田五十樹との討論記録)『人工知能学会』第 26 巻 5 号,pp.494-513,2011
- 正村俊之 「現代社会における境界変容——グローバル化と情報化の構造的連関」『思想』11月号, pp.88-116,2011
- 正村俊之 「震災とリスク・コミュニケーション——日本社会におけるリスクの社会的構成」『札幌学院大学総合研究所 BOOKLET4 震災を乗り越える社会情報学——札幌学院大学総合研究所シンポジウム・札幌学院大学社会情報学部開設 20 周年記念』 pp.70-92,2012
- 正村俊之 「コミュニケーション論の系譜と課題」『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房 2012.
- 正村俊之 「金融恐慌にみるコミュニケーションの成立機制——神・貨幣・情報空間」『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, 2012.
- 正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理：新自由主義はなにをもたらしたのか」『フォーラム現代社会学』第 11 号, pp. 70 -80,2012.

- 正村俊之「リスク社会論の視点からみた東日本大震災——日本社会の三つの位相」, 田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』ミネルヴァ書房, 2013.
- 正村俊之「問われる『科学とメディア』への信頼」『学術の動向』2013年1月号, pp. 42-45.
- 長谷川公一『『気候の危機』とローカル環境ガバナンス』伊藤達雄・戒能通厚編『アジアの経済発展と環境問題——社会科学からの展望』明石書店, pp.112-120, 2009.
- 長谷川公一「温暖化対策とエネルギー政策」鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房, pp.180-183, 2009.
- 長谷川公一「リスク社会化と市民社会」『社会学研究』85号, pp. 1-19, 2009.
- 長谷川公一「低炭素社会に向けて——コペンハーゲン会議の現場から」『環境と公害』39-3, pp.14-20, 2010.
- Koichi HASEGAWA, “Collaborative Environmentalism in Japan” in H. Vinken et al. eds *Civic Engagement In Contemporary Japan: Established And Emerging Repertoires*, Springer, pp.84-100, 2010.
- Koichi HASEGAWA, “Tamito Yoshida: An Unknown Master of Japanese Sociology,” *International Journal of Japanese Sociology* 19, pp.126-132, 2010.
- 長谷川公一「「もう一つのチェルノブイリ」を待たねばならなかったのか」『朝日ジャーナル 原発と人間』（2011年6月5日号）pp.66-69, 2011.
- 長谷川公一「廃墟からの新生」内橋克人編『大震災のなかで』岩波書店, pp.254-271, 2011.
- 長谷川公一「東日本大震災と復興をめぐる諸課題——宮城県を中心に」『環境と公害』41-1, pp.9-14, 2011.
- 長谷川公一「東日本復興への希望」『arc』15号, pp.38-45, 2011.
- Koichi HASEGAWA, “Cultivating Social Diversity and the Role of NGOs/NPOs,” Kunihiro KIMURA ed., *Minorities and Diversity*, Melbourne: Trans Pacific Press, pp.113-135, 2011.
- Koichi HASEGAWA, “A Comparative Study of Social Movements for a Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S.,” in J. Broadbent and V. Brockman (ed.), *East Asian Social Movements: Power, Protest and Change in a Dynamic Region*, New York: Springer, pp. 63-79, 2011.
- 長谷川公一「脱原子力社会へ——エネルギー供給と四番目のE」『現代の理論』

29号, 2011.

長谷川公一「東日本大震災・福島原発震災以後の環境社会学に向けて」『環境社会学研究』17号, 2011.

Koichi HASEGAWA, "Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster," *International Journal of Japanese Sociology*, No.21, pp. 84-91, 2012.

長谷川公一「巨大開発から核燃基地へ」(船橋晴俊との共著) 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣, pp.19-84, 2012.

長谷川公一「地域社会と住民運動・市民運動」 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣, pp.209-254, 2012.

長谷川公一「日本の原子力政策と核燃料サイクル施設」 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣, pp.317-349, 2012.

長谷川公一「危機からの再生——原発閉鎖でよみがえった電力公社」『社会運動』第384号, pp.36-40, 2012.

長谷川公一「コンセンツの向こう側——『六ヶ所村』は何を提起しているのか」『社会運動』第385号, pp.31-35, 2012.

長谷川公一「自然エネルギーは地域の力——原発依存からの脱却は可能か」『社会運動』第386号, pp.27-33, 2012.

長谷川公一「リスク社会と倫理」 大塚直・大村敦志・野澤正充『社会の発展と権利の創造——民法・環境法学の最前線』有斐閣, pp.829-846, 2012.

長谷川公一「福島第一原発事故から学ぶ脱原子力社会」『環境と公害』42-1, pp.2-7, 2012.

長谷川公一「フクシマは世界を救えるか——脱原子力社会に向かう世界史的転換へ」 田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』ミネルヴァ書房, pp.197-223, 2013.

長谷川公一「リスク社会と再帰性——福島第一原発事故をめぐって」 宮島喬・船橋晴俊・友枝敏雄・遠藤薫編『グローバリゼーションと社会学——モダニティ・グローバリティ・社会的公正』ミネルヴァ書房, pp.120-138, 2013.

長谷川公一「フクシマ原発事故と日本の市民社会」『ボランティア研究』2, pp.86-94, 2013.

長谷川公一「市民社会論からみたフクシマ原発事故」『日本における政策分析

- その現状と課題』(文部科学省科学研究費補助金「わが国における政策分析と政策過程についての比較政策分析学的研究」研究成果中間報告論集(研究代表者:足立幸男) pp.229-239, 2013.
- 長谷川公一「社会学における国際化の意義」『理論と方法』28-2,印刷中,2013.
- 永井彰「沖縄の島嶼部における地域ケア・システム構築の現状と課題」『東北文化研究室紀要』51集, pp.1-15, 2010.
- 永井彰「ハーバーマスの社会理論——視座と方法」東北大学大学院文学研究科(博士学位論文), 2011.
- 永井彰「福祉社会学からみた小規模・高齢化集落研究の課題」『福祉社会学研究』8号, pp.56-60, 2011.
- 永井彰「福祉課題への地域住民の関与をめぐって」『文化』76巻1・2号, pp.99-114, 2012.
- 永井彰「ハーバーマスの民主主義的法治国家論の現代的射程——福祉国家をめぐる諸問題とのかかわりで」『東北大学文学研究科研究年報』62号, pp.80-102, 2013.
- 永井彰「地域自治の変容と地域ケア・システム——長野県上水内郡小川村の事例」『社会学研究』92号, pp.141-161, 2013.
- 下夷美幸「離婚後の養育費政策に関する研究——国家による家族介入の必要性と危険性」お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科(博士学位論文), 2009.
- 下夷美幸「男女共同参画社会とジェンダー」,三本松正之・杉岡直人・武川正吾編『社会理論と社会システム』ミネルヴァ書房, pp.77-92, 2009.
- 下夷美幸「「リスク社会」下の現代家族——その可能性と社会的条件」,『社会学研究』85号,東北社会学研究会, pp.21-43, 2009.
- 下夷美幸「介護支援政策の規範論と制度論——介護保険制度を素材として」,『家族関係学』28号,日本家政学会家族関係学部会, pp.33-41, 2009.
- 下夷美幸「養育費問題からみた日本の家族政策——国際比較の視点から」,『比較家族史研究』25号,比較家族史学会, pp.81-104, 2010.
- Miyuki SHIMOEBISU, “Single Mothers and Child Support Policies in Japan,”
Kunihiro Kimura (ed.), *Minorities and Diversity*, Trans Pacific Press,
pp.15-30, 2011.
- 下夷美幸「家庭生活を取り巻く社会的状況」新・保育士養成講座編纂委員会編『家庭支援論』全国社会福祉協議会, pp.29-51, 2011.

- 下夷美幸 「東日本大震災と男女共同参画——「人間の復興」に向けて」『福祉社会学研究』9号, pp.63-80, 2012.
- 下夷美幸 「オーストラリアの養育費制度——もうひとつのアングロサクソンモデル」『養育費確保の推進に関する制度的諸問題』養育費相談支援センター(家族問題情報センター 厚生労働省委託事業), pp.40-61, 2012.
- 下夷美幸 「イギリスにおける養育費政策の変容——子どもの貧困対策との関連から」『大原社会問題研究所雑誌』649号, pp.1-15, 2012.
- 下夷美幸 「母子世帯と養育費」ジェンダー法学会編『固定された性役割からの解放(講座 ジェンダーと法 第2巻)』日本加除出版, pp.189-203, 2012.
- 下夷美幸 「ジェンダー・エクイティと福祉国家」武川正吾編『公共性の福祉社会学』東京大学出版会, pp.53-71, 2013.
- 下夷美幸 「家族政策と不平等——母子世帯に焦点をあてて」佐藤嘉倫・木村敏明編『不平等生成メカニズムの解明』ミネルヴァ書房, pp.99-119, 2013.
- 下夷美幸 「アメリカにおける養育費制度」「イギリスにおける養育費制度」「オーストラリアにおける養育費制度」「スウェーデンにおける養育費制度」棚村政行編『面会交流と養育費の実務と展望』日本加除出版, pp.278-301, 2013.

1-2 著書・編著

- 吉原直樹 『変わるバリ 変わらないバリ』(倉沢愛子と共編著), 勉誠出版, 2009年.
- 吉原直樹 『都市社会計画の思想と展開』(アーバン・ソーシャル・プランニングを考える2, 藤田弘夫・橋本和孝と共編著), 東信堂, 2009年.
- Naoki YOSHIHARA *Fluidity of Place*, Trans Pacific Press, 2010, pp.233.
- 吉原直樹 『コミュニティ・スタディーズ——災害と復興、無縁化、ポスト成長の中で、新たな共生社会を展望する』作品社, 2011.
- 吉原直樹 『モビリティと空間の物語——社会学のフロンティア』(編著), 東信堂, 2011.
- 正村俊之 『グローバリゼーション——現代はいかなる時代なのか』, 有斐閣, 224p, 2009.
- 正村俊之 『生と死への問い』(編) 東北大学出版会, 2011年

- 正村俊之 『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』(編著)勁草書房, 2012.
- 正村俊之 『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』(共編著), ミネルヴァ書房, 2013.
- 長谷川公一 『社会学』(共著) 有斐閣, 2007.
- 長谷川公一 『脱原子力社会の選択 増補版——新エネルギー革命の時代』新曜社, 2011.
- 長谷川公一 『脱原子力社会へ——電力をグリーン化する』岩波書店, 2011.
- 長谷川公一 『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』(共著) 有斐閣, 2012.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

- 吉原直樹 「サスキア・サッセン著『グローバル・シティ』, 『週刊読書人』2775号(2009年2月13日号), 2009.
- 吉原直樹 「J・トーピ著『パスポートの発明』, 『図書新聞』2917号(2009年5月9日号), 2009.
- 吉原直樹 「自著紹介・吉原直樹編著『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容』, 『地域社会学年報』第21集, 2009年.
- 正村俊之 「石井和平『社会情報学——情報技術と社会の共変』, 『社会学評論』, 2009.
- 長谷川公一 「書評・庄司興吉『社会学の射程——ポストコロニアルな地球市民の社会学へ』, 『社会学評論』239(60-3), pp.453-454, 2009.
- 永井彰 「高橋泉著『沖縄宮古島下地民俗誌——1974-1976 フィールドワークの記録』, 『社会学研究』90, pp.165-169, 2012.
- 下夷美幸 「書評リプライ『養育費政策にみる国家と家族：母子世帯の社会学』, 『社会福祉学』50巻1号, 日本社会福祉学会, pp.206-208, 2009.
- 下夷美幸 「書評・神原文子『子づれシングル—ひとり親家族の自立と社会的支援』」, 『福祉社会学研究』8号, 福祉社会学会, pp.145-149, 2011.

(3) 解説

- 吉原直樹 「新たな制度設計のために」, 日本学術会議『学術の動向』2009年1月号, 2009年.
- 吉原直樹 「バリ像の刷新に向けて」, 勉誠出版『勉誠通信』第5号, 2009年.
- 正村俊之 「グローバリゼーションと境界変容」『書齋の窓』2010年1-2月合併号, pp.48-52, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 ジンメル理論と時代の学問的関心」, 『社会学研究』87号, pp.1-3, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 政治と宗教をめぐる二つの位相」, 『社会学研究』89号, pp.1-4, 2011
- 正村俊之 「集合知が求められる時代——社会と個人の関係変容」『社会情報』21号, pp.21-26, 2011.
- 正村俊之 「巻頭言 公正と承認の社会的・思想的な背景」, 『社会学年報』41号, pp.1-3, 2012.
- 正村俊之 「シリーズ企業との対話 6: 東北放送との対話: 東日本大震災からリスク・コミュニケーションの“これから”を考える」, 『東北大学文学部ブックレット 考えるということ』No.7, 2012.
- 正村俊之 吉田民人『社会情報学とその展開』の編集・「あとがき」および座談会「社会情報学と吉田理論」所収, 勁草書房, 2013.
- 正村俊之 吉田民人『近代科学の情報論的転回——プログラム科学論』の編集・「あとがき」, 勁草書房, 2013.
- 長谷川公一 「JCO 臨界事故」鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房, pp.169, 2009.
- Koichi HASEGAWA “Yokohama: The Harbor of Hope,” *Global Dialogue* 1-4: 10-11, 2011.
- Koichi HASEGAWA “Voices from Ruins: Rebuilding a Real Sustainable Community,” *Newsletter of Research Committee* 24, No.38: 3-4.
- 長谷川公一 「岐かれ路——3月11日以後の日本再生」『環境と公害』41巻3号, pp.138, 2012.
- 長谷川公一 「エネルギー供給の倫理と責任」『科学』p.1, 2012.
- Koichi HASEGAWA “The Yokohama Congress: a Bridge to a More Equal World,” *Global Dialogue* 2-5: online version, 2012.
- Koichi HASEGAWA “Haiku: Beauty in Simplicity,” *Global Dialogue* 3-3: online version, 2013.

長谷川公一「環境とエネルギーの政策的統合——山形県の『環境エネルギー部』」
『環境と公害』42-1, pp.60, 2013.

永井彰 「地域社会の異質性の増大と福祉課題の変化」福祉社会学会編『福祉
社会学ハンドブック——現代を読み解く 98 の論点』中央法規出版,
pp.96-97, 2013.

永井彰 「巻頭言 高齢者の地域生活支援の社会学」『社会学研究』92号,
pp.1-13, 2013.

下夷美幸 『養育費確保に関する制度的課題——日本及び諸外国の養育費制
度の比較から』(ブックレット), 家族問題情報センター・養育費相談支
援センター, 2010.

下夷美幸 「コメント 公正と承認——母子世帯問題から考える」『社会学年
報』41号, pp.39-41, 2012.

下夷美幸 「家族介護の現金給付を行うべきか」「離婚後の生活はどう変化し
たか」福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く 98
の論点』中央法規出版, pp.78-79, pp.146-147, 2013.

(4) 辞典項目

吉原直樹 「空間と場所」「新都市社会学」『キーワード地域社会学』(新訂
版), ハーベスト社, 2011.

正村俊之 「予言の自己成就」『社会学事典』丸善, 2010

長谷川公一 「持続可能な社会」「環境ガバナンス」「環境社会学」『社会
学事典』丸善, 2010 (編集委員として、「環境と技術の社会学」分野の編
集を担当)

長谷川公一 「資源動員論」「相対的剥奪」「脱原発」「環境運動」『現代社
会学事典』弘文堂, 2012

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Naoki YOSHIHARA “Impact of Mobility and Globalization in Asia,” Tohoku
University & NUS Joint Forum of Sociology & Social Stratification Study, NUS,
Singapore, February, 18, 2009.

Naoki YOSHIHARA “Urban and Migration” (Chair), The 9th Conference of Asia
Pacific Sociological Association, Discovery Kartika Plaza Hotel, June, 14, 2009.

Naoki YOSHIHARA “Mobility in Asia ‘Now’ and Japanese Society ‘in Future’ ,”
(coordinator) Tohoku University & UI Joint Symposium, JICA, Jakarta, October,
28, 2009.

Naoki YOSHIHARA ‘Today’s Trends of Global Mobility in Japan and Indonesia,’
(coordinator) Tohoku University & Udayana University Joint Symposium,
Udayana University, Bali, October, 29, 2010.

Koichi HASEGAWA “Overview of Japanese Sociology from the Eye of Public
Sociology” The Joint Forum on Sociology & Social Stratification Study,
Inequalities & Disparities in Globalized Asia at National University of
Singapore, Singapore, February, 18, 2009.

Koichi HASEGAWA “Climate Change Politics in Japan: Institutions, interest groups
and ideas” (共著) The 7th International Science Conference on the Human
Dimensions of Global Environmental Change, IHDP Open Meeting 2009, Bonn,
Germany, April, 27, 2009.

Koichi HASEGAWA “Postwar Japanese Sociology from the Public Sociology
Perspective” The 7th East Asian Sociologist Conference, Seijo University,
Tokyo, Japan, October, 9, 2009.

Koichi HASEGAWA, “Media Coverage on Climate Change in Japan,” The
Second International Symposium on Environmental Sociology in East Asia,
National Tsing Hua University, Hsinchu, Taiwan, November, 13, 2009.

Koichi HASEGAWA “Local Volunteers for Climate Change Actions: From the
Surveys on Their Attitudes, Awareness and Actions,” The Second International
Symposium on Environmental Sociology in East Asia, National Tsing Hua
University, Hsinchu, Taiwan, November, 15, 2009.

Koichi HASEGAWA, “Climate Change Action in Local Communities,” Japan
Foundation, Center for Global Partnership-Social Science Research Council
Policy Forum Core Group Meeting II, 国際文化会館, 東京都, 2010年3月12
日.

Koichi HASEGAWA “Media Coverage on Climate Change: COMPON Japan Case”,
The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable
Development, Gothenburg, Sweden, July, 10, 2010.

Koichi HASEGAWA Session 6, Social Sustainability, Environmental Justice and Law,
The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable

Development, Gothenburg, Sweden, July, 11, 2010.

Koichi HASEGAWA “Local Movement and Local Governance for “Climate Crisis””,
The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 14,
2010.

Koichi HASEGAWA “Local Volunteers for Climate Change Actions toward
Sustainable Learning Community,” The XVII ISA World Congress of Sociology,
Gothenburg, Sweden, July, 15, 2010.

Koichi HASEGAWA, RC24 Environment and Society, Session 12: Environmental
Issues and People's Voice in Asia と Session 13: Sustainability and Ecological
Democracy in East Asia の Organizer と Chair, The XVII ISA World
Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 15, 2010.

Koichi HASEGAWA “A Comparative Study of Social Movements for a
Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S., ” The XVII ISA World
Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 17, 2010.

Koichi HASEGAWA “Comparative Analysis of Environmental NGOs in Japan, the
US and Germany,” The 8th East Asian Sociologists’ Conference, Korea
Maritime University, Pusan, Korea, October, 30, 2010.

Koichi HASEGAWA “Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear
Disaster,” The 9th East Asian Sociologists’ Conference, Nanchang, China, July,
14, 2011.

Koichi HASEGAWA “Anti-nuclear Movements in Japan,” East Asian Law and
Society Conference, Yonsei University, Seoul, Korea, October, 11, 2011.

Koichi HASEGAWA Special Session “*Environmental sociological imagination
towards challenge of disasters in Japan*,” におけるパネリスト,
3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia 2011,
Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, October, 23, 2011.

Koichi HASEGAWA “Comparing Climate Change Policy Networks in East Asia:
Examining Commonalities and Differences of Media Coverage and Society,”
(共著) , 3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia
2011, Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, October, 23, 2011.

Koichi HASEGAWA “Anti-nuclear Activities and Public Awareness in Japan:
Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” The ISA 2nd Forum of

Sociology, University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August, 1, 2012.

Koichi HASEGAWA Special Session on Changing Japanese Society and the Possibility for New Dynamics under Globalization and the Resilience Process after March 11 Disaster の企画・司会・報告, “Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster: A Sociological Perspective,” The 104 American Sociological Association's Annual Meeting, Denver, USA, August, 20, 2012.

Koichi HASEGAWA “Facing Nuclear Risks: Sociological Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster,” The Australian Sociological Association 2012 Conference, University of Queensland, Brisbane, Australia, November, 28, 2012.

Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Activities after the Fukushima Nuclear Disaster: "Hydrangeas Revolution" in Japan,” International Congress on Beyond the Crisis: Sociology Facing New Forms of Risk, Uncertainty and Precarity, University of Basque County, Bilbao, Spain, March, 12-3, 2013.

Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Energy Protest after the Fukushima Nuclear Disaster,” The Third ISA Conference of the Council of National Associations, Sociology in Times of Turmoil: Comparative Approaches, Middle East Technical University, Ankara, Turkey, May, 13-6, 2013.

Shinsaku SHIMIZU “Sociological Neoconservative and Intellectual Networks in New York Intellectual Society,” The 39th World Congress of International Institute of Sociology, Yerevan State University, Armenia, July, 13, 2009.

Shinsaku SHIMIZU “Daniel Bell as a Public Intellectual and Sociological Controversies over Neoconservatism,” The 17th World Congress of International Sociological Association(RC08), Gothenburg, Sweden, July, 13, 2010.

Kimura, Tadafumi “Self-identity in Media Communication: in Consideration of Frame Analysis”, X VII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 12, 2010.

(2) 国内学会

吉原直樹 「公正な社会を求めて——グローバル化する世界のなかで」(コメントーター), 日本学術会議公開シンポジウム(日本社会学会と共催)、日本学術会議講堂、2009年8月2日.

- 吉原直樹 「地域社会の再生をめざして」(司会)、東北社会学会大会課題報告、新潟大学、2010年7月24日
- 正村俊之 「ジンメル理論の革新性——デュルケーム、ウェーバーとの関連において」、東北社会学会研究会・ジンメル研究会合同大会シンポジウム、東北大学、2009年10月24日。
- 正村俊之 日本社会学会史学会50周年記念シンポジウム「社会学の新たなプロブレマティークのために——近代化・共同性・個人化」の討論者、奈良女子大学、2010年6月27日。
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会プレカンファレンスⅠ「アジア太平洋地域の社会情報学」の企画・司会、長崎県立大学、2010年9月3日。
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会ワークショップ「先端技術を組み込んだ社会——3D・モバイル・ライフログ」の企画・司会、長崎県立大学、2010年9月5日。
- 正村俊之 東北社会学会研究会大会シンポジウム「グローバル時代における政治と宗教」の企画・司会、東北大学、2010年10月16日。
- 正村俊之 「プログラム科学論から何を受け継ぐか——社会情報学の視点から」、名古屋大学、日本社会学会大会、2010年11月6日。
- 正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「グローバル化する世界——いま何を問うべきか」の企画・討論者、名古屋大学、2010年11月7日。
- 正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理——新自由主義は何をもたらしたのか」関西社会学会大会シンポジウム「社会学が捉える現代資本主義——新しい『経済と社会』の可能性」甲南女子大学、2011年5月29日。
- 正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』」のパネリスト、人工知能学会大会、アイーナ・いわて県民情報交流センター、2011年6月1日。
- 正村俊之 「社会理論の視点からみた東日本大震災——日本社会の三つの位相に内在するリスク問題」東北社会学会大会(自由報告)、宮城学院女子大学、2011年7月18日。
- 正村俊之 東北社会学会大会シンポジウム「現代社会における公正と承認」の企画と司会、宮城女子学院大学、2011年7月17日。
- 正村俊之 東北社会学会大会特別部会「社会問題としての東日本大震災——社会学はどのようにアプローチするのか」の企画と司会、宮城女子学院大学、2011年7月17日。
- 正村俊之 「集合知を社会情報学が取り上げることの意義」日本社会情報学

会大会ワークショップ「集合知の社会情報学—社会情報学 BOK 構築への挑戦」, 静岡大学, 2011 年 9 月 11 日.

正村俊之 日本社会情報学会大会・自由報告部会「情報社会論 4」の討論者, 静岡大学, 2011 年 9 月 11 日.

正村俊之 日本社会学会大会・研活テーマセッション「東日本大震災を考える(2)—社会学からの提起」の企画と司会, 関西大学, 2011 年 9 月 18 日.

正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「ネオリベラリズムとグローバリゼーション—その影響への社会学的接近」の企画と司会, 関西大学, 2011 年 9 月 18 日.

正村俊之 日本学術会議シンポジウム「3.11 福島第一原子力発電所事故をめぐる社会情報環境の検証—テレビ・ジャーナリズム、ソーシャル・メディアの特性と課題」の企画と討論者, 日本学術会議講堂, 2012 年 6 月 9 日.

正村俊之 日本学術会議シンポジウム「震災からの再生—社会学と計画学との対話—復興に向けて、何を考えるべきなのか」の企画・討論者, 東北大学, 2012 年 7 月 29 日.

正村俊之 社会情報学会(SSI)シンポジウム「社会情報学と世界: 新たな共有と創造に向けて(理論篇)」の企画・司会, 群馬大学, 2012 年 9 月 15 日.

正村俊之 東北社会学研究会大会シンポジウム「社会科学と研究倫理」の司会, 東北大学, 2012 年 10 月 6 日.

正村俊之 日本社会学会大会・招待講演の司会, 札幌学院大学, 2012 年 11 月 3 日.

正村俊之 日本社会学会大会テーマセッション「震災問題を考える(1)—リスク社会における『社会と科学の関係』」の企画・司会, 札幌学院大学, 札幌学院大学, 2012 年 11 月 3 日.

正村俊之 「東日本大震災とプログラム科学論—近代科学の新たな課題」, 政治社会学会大会テーマセッション「プログラム科学とは何か」, 国際基督教大学, 2012 年 11 月 24 日.

正村俊之 「日本学術会議シンポジウム「震災復興の論理—新自由主義と日本社会」の企画と司会, 2013 年 3 月

正村俊之 社会情報学会大会シンポジウム「フクシマ第一原子力発電所事故と社会情報学の課題—科学技術・リスク・(無)知」早稲田大学, 2013 年 9 月 13 日

長谷川公一 日本社会学会大会・テーマセッション「吉田理論の提起したも

の——批判的検討」の企画・司会, 第 83 回日本社会学会大会, 名古屋大学, 2010 年 11 月 6 日.

長谷川公一 「被災地から法社会学・社会科学の課題を考える: 福島原発震災が提起するもの」, 日本法社会学学会大会, 緊急企画「災害・救援・復興をどうとらえるか?」東京大学, 2011 年 5 月 7 日.

長谷川公一 「東日本大震災と復興をめぐる社会学的課題」, 東北社会学会大会, 特別部会「社会問題としての東日本大震災——社会学はどのようにアプローチするのか」宮城学院女子大学, 2011 年 7 月 18 日.

長谷川公一 「東日本大震災をどのような転換点とするのか」, 第 84 回日本社会学会大会, 研活テーマセッション(1) 東日本大震災を考える (1) ——社会学への問いかけ, 関西大学, 2011 年 9 月 17 日.

長谷川公一 環境系 3 学会合同シンポジウム「いかにして原子力政策の転換をはかるのか」関西学院大学ハブスクエア大阪, 2012 年 7 月 1 日.

長谷川公一 東北社会学会大会シンポジウム「科学・倫理・社会」企画と討論者, 山形大学, 2012 年 7 月 15 日.

長谷川公一 第 40 回行動計量学会大会特別セッション「温暖化問題の国際比較研究」企画と司会, 新潟県立大学, 2012 年 9 月 15 日.

長谷川公一 東北社会学研究会大会シンポジウム「社会科学と研究倫理」討論者, 東北大学, 2012 年 10 月 6 日.

長谷川公一 第 55 回数理社会学会大会招待講演「社会学の国際化の意義」東北学院大学, 2013 年 3 月 19 日.

永井彰 福祉社会学会第 8 回大会シンポジウム, 「小規模・高齢化集落(限界集落)の課題と持続可能性」討論者, 九州大学, 2010 年 5 月 30 日.

下夷美幸 「離婚後の養育費問題にみる日本の家族政策——国際比較の視点から」, 第 52 回比較家族史学会大会シンポジウム, 佛教大学, 2010 年 6 月 13 日.

下夷美幸 東北社会学会大会シンポジウム, 「現代社会における公正と承認」討論者, 宮城女子学院大学, 2011 年 7 月 17 日.

下夷美幸 東北社会学会特別部会「社会問題としての東日本大震災——被災地での社会調査から見えてきたもの」の司会, 山形大学, 2012 年 7 月 15 日.

木村雅史 「SNS 分析の基礎視角——ゴフマンのパースペクティブから」, 日本社会情報学会, 2011 年 9 月 11 日

木村雅史 「CMCの相互行為分析——ゴフマンのパースペクティブから」,
第84回日本社会学会, 2011年9月17日

木村雅史 「「状況の定義」と他者認知」, 第86回日本社会学会, 2013年10月
12-13日

(3) 研究会

吉原直樹 「日本思想史のなかでの移動、越境、オルタナティブ・コミュニティ」(基調講演), 東北大学GCOE・国際交流基金・東京外国語大学共催
第3回国際会議「日本近現代思想史を書き直す——移動と越境の視座から」, 東北大学, 2009年9月25日.

吉原直樹 「創発的なコミュニティ形成の可能性と課題」(基調講演)、横浜
国立大学大学院建築都市スクール市民公開講座「横浜建築都市学」、横浜
情報文化センター, 2009年11月20日

正村俊之 東北社会学会研究例会の司会, 2010年2月27日.

正村俊之 「なぜ『情報社会論』の新しいパラダイムなのか」明治大学情報
コミュニケーション学部主催 公開研究会「『情報社会論』の新しいパラ
ダイムなのか」の司会・報告者, 2010年2月27日

正村俊之 「集合知が求められる時代——個人と社会の関係変容」札幌学院
大学主催 第20回社会と情報に関するシンポジウム「集合知と社会情報
学：社会情報学の構築を目指して」2010年2月27日

正村俊之 東北社会学会・研究例会の企画と司会, 東北大学, 2011年6月25
日.

正村俊之 「『近代科学の再編と社会情報学——東日本大震災から考える——』
「第3回 知の創成と検証に関するシンポジウム」札幌学院大学, 2012年
8月28日

正村俊之 社会情報学会関東地区・研究例会「情報化による再編成と社会情報
学の基礎論——知識・空間・社会」の討論者, 早稲田大学, 2012年2月19
日.

Koichi HASEGAWA “For Understanding the Significance of Growing Diversity:
Collaborating Process between Local Governments and NGO/NPOs, “日仏シ
ンポジウム「排除なき社会をつくることはできるか：日本とフランスの
視点」, 日仏会館, 2009年10月17日.

Koichi HASEGAWA “Public Perceptions, Attitudes, and Political Culture,” Expert Workshop: Ready or Not? Assessing Recent Changes in Japan’s International Crisis Management Capabilities, Institute of East Asian Studies, University of Duisburg-Essen, Duisburg, Germany, 2011年10月29日.

長谷川公一 第 29 回日本環境会議松江大会基調講演「福島原発事故から学ぶ脱原子力社会」島根大学, 2012年3月16日.

長谷川公一 日本再興東北フォーラム「日本からアジアへ——脱原子力のメッセージ」東北大学, 2012年3月30日.

長谷川公一 日独シンポジウム「震災・原発震災リスク下の市民社会：連帯/孤独と信頼/不信の両義性」国際交流基金, 2012年5月8日.

Koichi HASEGAWA “Tackling Environmental Problems and Consumption Society: Strategies from Japanese Social Sciences,” International Thinkshop: Theories and Strategies against Hegemonic Social Sciences, 成城大学, 2012年5月12日.

Koichi HASEGAWA 日本学術振興会・中国社会科学院共催シンポジウム「グローバル化の中の社会変容——新しい東アジア像を形成するために」“Shifting to a Sustainable Society: Learning from the Great East Japan Earthquake,” 中国社会科学院, 北京, 中国, 2012年8月31日.

永井彰「ハーバーマスの社会理論——視座と方法」東北社会学会 2011年度第1回研究例会, 東北大学, 2011年6月25日.

下夷美幸 「離婚母子世帯の子ども養育費：問題と政策の検討」, 労働政策研究・研修機構「シングルマザーの仕事と生活」研究会, JILPT 霞が関事務所, 2010年3月30日

下夷美幸 東北大学大学院文学研究科グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点」シンポジウム「家族の多様性と不平等の形成」討論者, 東北大学東京分室, 2011年11月13日.

下夷美幸 大原社会問題研究所「子どもの貧困と労働研究会」討論者, 法政大学, 2012年1月28日.

下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2012年2月18日.

下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2012年5月19日.

下夷美幸 「イギリスにおける養育費政策の変容——ひとり親の子ども貧困の視点から」大原社会問題研究所・子どもの貧困と労働研究会, 法政大学, 2012年7月21日.

下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2012年10月20日.
下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2013年3月9日.
下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2013年6月15日.

(4) 海外招待講演

Naoki YOSHIHARA “The Trend of Social Change in Postwar Japan,” Workshop on Postwar Japan, Universitas Indonesia, Depok, March, 30, 2009.

Koichi HASEGAWA “Globalization and Social Movements from a Civil Society Perspective,” The Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, University of California Riverside, Riverside, USA, May, 30, 2009.

Koichi HASEGAWA “Green Energy Politics in Japan,” The Forum for Financial Crisis and the East Asian Society, Chinese Sociological Association, Xi’an, China, June, 21, 2009.

Koichi HASEGAWA “Dynamism of Environmental Movements and Policy in Japan,” Public Lecture hosted by Japanese Area Studies, University of Indonesia, April, 16, 2010.

Koichi HASEGAWA “Thinking about the Fukushima Nuclear Disaster: Lessons and the Way to a Post-Nuclear Society,” Pusan National University, Busan, Korea, June, 22, 2011.

Koichi HASEGAWA “Turning to a Post-Nuclear East Asia: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster,” Korean Sociological Association’s Annual Meeting, Chungnam National University, Daejeon, Korea, June, 24, 2011.

Koichi HASEGAWA “Disaster, Risk Society and the Third Sector: the Japan Experiences,” The Taiwan Association for the Third Sector Research’s Annual Meeting, National Chengchi University, Taipei, Taiwan, September, 24, 2011.

Koichi HASEGAWA “Public Perceptions and Citizen’s Activism on Nuclear Risks before and after the Fukushima Nuclear Accident,” Nissan Institute Lecture Theatre: The Disasters of 11th March 2011 — One Year on, Nissan Institute of Japanese Studies, University of Oxford, UK, March, 24, 2012.

Koichi HASEGAWA “Toward a Post-Nuclear Society: Examining the 3/11 disaster and Nuclear Risks,” Symposium: Towards Long-term Sustainability: Response

to the 3/11 Earthquake and the Fukushima Nuclear Disaster, Center for

Japanese Studies, University of California, Berkeley, USA, April, 20, 2012.

長谷川公一 気候変動に係わる市民参加及びキャパシティビルディングセミナー基調講演「市民地域とともに気候変動対策——市民参加の事例から」
日中友好環境保護センター, 北京, 中国, 2012年4月25日.

Koichi HASEGAWA “Anti-nuclear Activism in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” International Symposium “The Disaster of Fukushima and the Future of the Nuclear Power: Learning from the Experience,” Universidad Popular Autónoma de Puebla, Puebla, Mexico, June, 15, 2012.

Koichi HASEGAWA “Rethinking on Civil Society in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” International Symposium on “Rethinking Nature in Contemporary Japan: Science, Economics, Politics,” Ca' Foscari University of Venice, Venice, Italy, February, 25-26, 2013.

Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Activities after the Fukushima Nuclear Accident: New Stage of the Japanese Civil Society” International Workshop on “Civil Society, Political Participation and Happiness,” Werner Reimers Stiftung, Bad Homburg, Germany, May, 23-25, 2013.

2 教員の受賞歴 (2009～2013 年度)

吉原直樹 第3回地域社会学会賞, 2010年

下夷美幸 平成21年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門受賞, 2009年.

IV 教員による競争的資金獲得 (2009～2013 年度)

(1) 科学研究費補助金

(2010-2012 年度) 課題番号 22402035, 基盤 (B), アジアメガシティの多層化するモビリティとコミュニティの動態に関する経験的研究, 研究代表者, 吉原直樹, 14,200,000 円 (3年間総額)

(2008-2010 年度) 課題番号 20730323, 若手研究(B), 政府・宗教組織・コミュニティの「協働」に基づく社会関係資本の貧困救済効果, 研究代表者:

- 清水晋作, 4,160,000 円 (3 年間総額).
- (2007-2009 年度) 課題番号 19300084, 基盤研究(B) ユビキタス社会の社会情報学基礎論, 研究代表者: 正村俊之, 6,064,000 円 (3 年間総額)
- (2007—2009 年度) 課題番号 19330102, 基盤研究(B), 地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション, 研究代表者: 長谷川公一 17,090,000 円 (3 年間総額)
- (2010—2012 年度) 課題番号 22300036, 基盤研究(B) 学際的学問分野における BOK 策定を事例とした知の創成と検証支援システムの研究・開発, 研究分担者: 正村俊之, 7,020,000 円 (3 年間総額)
- (2011—2014 年度) 課題番号 24243057, 基盤研究(A) 東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の被害とその克服の道, 研究分担者: 正村俊之, 35,400,000 円 (4 年間総額)
- (2010—2013 年度) 課題番号 22243036, 基盤研究(A) 温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究, 研究代表者: 長谷川公一, 24,600,000 円 (4 年間総額)
- (2010—2014 年度) 課題番号 22243038, 基盤研究(A) 日本における社会学教育・研究の国際化をめざす総合的研究, 研究分担者: 長谷川公一, 32,000,000 円 (5 年間総額)
- (2010-2012 年度) 課題番号 22530523, 基盤研究(C), 地域ケア・システムの再編成にかんする社会学的比較研究, 研究代表者: 永井彰, 3,100,000 円 (3 年間総額)
- (2010—2012 年度) 課題番号 22530525, 基盤研究 (C), 離婚母子世帯の子どもの扶養をめぐる福祉国家と家族の関係に関する日英比較研究, 研究代表者: 下夷美幸, 1,500,000 円 (3 年間総額)
- (2013—2015 年度) 課題番号 25380650, 基盤研究 (C), 離婚後の親子に関する家族規範の実証的研究, 研究代表者: 下夷美幸, 2,000,000 円 (3 年間総額)

(2) その他

- (2009 年度) サントリー文化財団人文科学、社会科学に関する研究助成、研究代表者: 吉原直樹「グローバル化に伴うヒトの移動の新たな展開と海外日本人社会の変容に関する研究」100 万円
- (2009 年度) JFE21 世紀財団アジア歴史研究助成、研究代表者: 吉原直樹「海外日本人コミュニティの変遷と脱ナショナリティのゆくえ」, 150 万円

(2009-10 年度) トヨタ財団アジア隣人プログラム助成、研究代表者：吉原直樹「バリ島に残存するヒンドゥー法典『アウイグ・アウイグ』の収集・整理と保存・継承」、350 万円

(2012 年度-13 年度) 日本生命財団研究助成「被災地域コミュニティの復興と再生--自治体・NGO との協働によるボトムアップ型政策提言」研究代表者：長谷川公一 1200 万円

V 教員による社会貢献 (2009～2013 年度)

吉原直樹 教授

- ・ 日本学術会議連携会員 (2004 年 9 月～2011 年 9 月)
- ・ 日本新聞協会賞推薦委員 (2000 年度～2009 年度)
- ・ 特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター評議員 (2000 年～現在)
- ・ 大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員 (2008 年 2 月～2009 年 6 月)
- ・ 講義「コミュニティ論」日本放送協会学園高校専攻科スクーリング、東北文化学園大学、2009 年 7 月 5 日
- ・ 講演「たかが町内会、されど町内会」仙台市青葉区西文化町内会 60 周年記念行事、2009 年 10 月 3 日
- ・ 講演「いま防災ガバナンスがおもしろい」2009 年度ブロック別セミナー、宮城県市町村職員研修所、2009 年 11 月 16 日

正村俊之 教授

- ・ 仙台市情報化推進会議委員, 2007～2010 年度
- ・ 関西学院大学出版会評議委員, 2004 年度～
- ・ 日本学術振興会・科研費第一段審査委員(図書館情報学・人文社会情報学), 2010 年度
- ・ 特別推進研究の評価報告書の作成, 2011 年
- ・ 宮城県山元町での記者会見(日本社会情報学会 JSIS の代表として), 2011 年 7 月 30 日
- ・ 講演「グローバリゼーションと東日本大震災」岩手県国際交流協会, 2011 年 9 月 25 日.
- ・ 日本学術会議連携会員・社会学委員会・社会理論分科会グローバリゼ

ーション小委員会委員長およびモダニティ小委員会委員 (2011年度～)

- ・日本学術会議連携会員・社会学委員会・東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会委員・幹事(2011年度～)
- ・日本学術会議連携会員・社会学委員会・メディア・文化研究分科会委員(2011年度～)
- ・文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」内・山元町 ICT 推進事業『山元復興学校』校長 (共同代表) , 2012 年度
- ・復興大学「復興の社会学」の講師, 2012 年

長谷川公一 教授

- ・日本学術会議連携会員 (2011年1月～)
- ・日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム類型別審査・評価部会委員 (2011年度-)
- ・『環境と公害』編集同人 (1998年-)
- ・宮城県自然エネルギー・省エネルギー促進審議会委員 (2002年度—)
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進センターセンター長 (2003年度—)
- ・エコ de スマイルコンテスト in みやぎ選考委員長 (2007年5月—2009年3月)
- ・環境省・ストップ温暖化「一村一品」全国大会実行委員長 (2007年度—2009年度)
- ・環境省・地球温暖化対策に関する地域連携のあり方に関する検討会委員 (2008年10月—2009年6月)
- ・環境省環境教育等推進専門家会議 (2011年10月-2012年8月)
- ・一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長 (2010年8月-)
- ・登米市地域新エネルギービジョン策定委員会委員長 (2009年7月-2011年3月)
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員 (2007年度—2011年度)
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員長 (2008年度・09年度・10年度)
- ・社団法人社会調査協会理事 (2009年—)
- ・社団法人社会調査協会倫理委員会委員長 (2009年—)
- ・財団法人せんだい男女共同参画財団理事 (2001年度—2012年度)
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事 (2000年度-)

- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長(2007年7月-2012年1月)
- ・公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長(2012年2月-)
- ・特定非営利法人せんだい・みやぎNPOセンター監事(1997年-)
- ・東北大学文学部「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の企画と運営(2007年-)
- ・講演「フリーライダー(ただのり)問題としての地球温暖化問題」
仙台弁護士会、2009年9月17日。
- ・講演「温暖化会議と市民の力——COP15の現場から」滋賀県地球温暖化防止活動推進員研修会、2010年2月11日。
- ・講演「地域の温暖化対策の最前線——地球温暖化防止活動推進員の意義と課題」広島県地球温暖化防止活動推進員研修、2010年2月24日。
- ・講演「COP15とNPO/市民」MELON・COP15参加報告・国際交渉シンポジウム、2010年3月8日。
- ・講演「地球温暖化問題への社会的視点」大学生生活協同組合東北事業連合通常総会基調講演、2010年5月29日。
- ・講演「エネルギー政策転換について」民主党地方自治体議員フォーラム第10回総会基調講演、2011年7月18日。
- ・講演「脱原子力は可能か」仙台市職員労働組合女性部第45定期総会記念講演、2011年7月18日。
- ・講演「脱原子力社会とエネルギー問題——3.11後を生きる」朝日カルチャーセンター新宿教室、2012年2月24日。
- ・講演「原発のない社会をめざすには」民主党地方自治体議員フォーラムグリーンテーブル発足記念総会基調講演、2012年7月18日。
- ・講演「脱原子力社会はこうつくる」佐高信政治塾講演、2012年7月24日。
- ・講演「これからのくらしとエネルギー——未来へ私たちができること」MELON会員と市民のつどい講演、2012年9月29日。
- ・復興大学「復興の社会学」の講師、2012年10月13日。
- ・講演「脱原子力社会に向けて」静岡大学人文社会学部シンポジウム「3.11後の原発と地域の未来」講演、2012年11月18日。

- ・講演「原子力問題の袋小路——六ヶ所村は何を提起しているのか」民主主義科学者協会法律部会春合宿講演、2013年3月26日。
- ・講演「やっちはいけない地層処分」ほろのべ核のゴミ全国交流会講演、2013年8月3日。

永井彰 教授

- ・宮城県保健福祉部指定管理者選定委員会委員、2010年、2011年。
- ・講演、篠ノ井ふれあいフォーラム（篠ノ井女性団体連絡会）、2009年7月5日。
- ・「災害弱者の支援と自立について」宮城県市町村職員研修所防災研修、2010年4月27日。
- ・日本学術振興会 特別研究員等審査会および国際事業委員会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員、2010-2011年。
- ・「地域社会の自立と自治を考える」東北大学大学院文学研究科と市民のセミナー第11期有備館講座、2012年8月11日。
- ・東北文化公開講演会「表象としての身体——死の文化の諸相」の企画運営、2012年11月24日～25日。

下夷美幸 教授

- ・仙台市男女共同参画推進審議会副会長（2009年度～2010年度）
- ・仙台市市民局指定管理者選定委員会委員（2010年度）
- ・厚生労働省・養育費相談支援センター事業に係る企画評価委員会委員（2011年度～）
- ・仙台市男女共同参画審議会会長（2011年度～）
- ・仙台市民生委員推薦会委員（2011年度～）
- ・出張講義「家族を研究するってどういうこと？それって何か役に立つの？」,福島県立磐城高校・大学講義体験,福島県立磐城高校, 2009年10月22日。
- ・講演「養育費確保に関する制度的課題」,養育費相談支援センター・平成22年度研修講師等研究会,東京芸術劇場会議室, 2010年5月24日。
- ・講義「現代家族の社会学」,平成24年度みやぎ県民大学,東北大学, 2012年10月13日

- ・講義「家族の絆—いま、求められる新しい形—」，平成 24 年度スマート・エイジング・カレッジ，加齢医学研究所スマート・エイジング国際共同研究センター，2012 年 11 月 9 日。
- ・講演「日本の養育費政策の現状と課題」，大阪弁護士会シンポジウム「養育費のあり方を考える」，大阪弁護士会館，2012 年 11 月 17 日。

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013 年度）

吉原直樹 教授

- ・日本学術会議連携会員（2007 年 8 月～）
- ・地域社会学会会長（2010 年 5 月～）
- ・日本都市社会学会理事（2007～2009 年度）
- ・東北社会学会会長（2007 年 7 月～2009 年 7 月）
- ・日本社会学会奨励賞推薦委員（2007 年度～2009 年度）
- ・日本社会学会学会賞選考委員（2009 年 11 月～）
- ・地域社会学会賞選考委員会委員（2007 年度～）
- ・コミュニティ政策学会理事（2004 年 7 月～）
- ・東北都市学会理事（2000 年 5 月～）
- ・社会学系コンソーシアム評議員（2010 年～）

正村俊之 教授

- ・日本社会情報学会英文編集委員,2008～2009 年度
- ・日本社会学会奨励賞選考委員(図書の部), 2009～2010 年度
- ・日本社会情報学会理事, 2009 年度～
- ・東北社会学会理事(研究活動委員長), 2009～2010 年度
- ・東北社会学研究会編集委員, 2009～2010 年度
- ・日本社会学会奨励賞選考委員(図書の部), 2009～2010 年度
- ・日本社会情報学会・研究委員会委員長, 2010 年度～
- ・日本社会情報学会大会発表賞選考委員, 2010 年度
- ・日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同大会(JSIS 側)実行委員長 2010 年度
- ・日本社会学会研究活動委員, 2010 年度～
- ・東北社会学研究会会長, (2010 年度～)
- ・日本社会情報学会(JSIS)副会長(2012 年度)

- ・社会情報学会(SSI)理事・研究活動委員会委員長(2012年度～)
- ・日本学術会議連携会員(2012年度～)

長谷川公一 教授

- ・日本社会学会理事 (2009年10月～2012年11月).
- ・日本社会学会国際交流委員長 (2009年10月～2012年11月).
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会副委員長 (2008年7月～2009年11月).
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会委員長 (2009年11月～).
- ・環境社会学会運営委員 (2005年6月～2009年6月).
- ・環境社会学会会長 (2007年6月～2009年6月).
- ・東北社会学会理事 (2011年7月～).
- ・東北社会学会会長 (2013年7月～).
- ・日本環境会議理事 (1998年度～).

永井彰 教授

- ・福祉社会学会理事 (2009～2010年度)
- ・福祉社会学会研究委員 (2011～2012年度)
- ・東北社会学研究会編集委員 (2010～2011年度)
- ・東北社会学会理事 (2007～2010年度)

下夷美幸 教授

- ・日本社会学会・『社会学評論』編集委員 (2009年度～2012年度)
- ・東北社会学会年報・編集委員 (2009年度～2010年度)
- ・福祉社会学会・研究委員 (2010年度)
- ・東北社会学研究会・会計委員 (2010年度～2011年度)
- ・福祉社会学会・理事 (2011年度～2012年度)
- ・東北社会学会・理事・研究活動委員長 (2011年度～)
- ・日本社会学会・奨励賞推薦委員 (2012年度)
- ・家族問題研究学会・編集委員 (2012年度～)
- ・東北社会学研究会・編集委員 (2012年度～)

清水晋作 助教

- ・東北社会学研究会編集委員(2004年9月～2009年10月)
- ・東北社会学研究会庶務委員(2008年9月～2009年9月)
- ・東北社会学会理事・庶務委員(2009年7月～2011年7月)

木村雅史 助教

- ・東北社会学会年報編集委員(2009年7月～)
- ・東北社会学会理事・庶務委員(2009年7月～)
- ・東北社会学研究会庶務委員(2009年10月～)

VII 教員の教育活動(2013年度)

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

正村俊之教授

社会的コミュニケーション論特論

社会的コミュニケーション論研究演習Ⅰ～Ⅱ

長谷川公一教授

社会変動学特論Ⅰ～Ⅱ

社会変動学研究演習Ⅰ～Ⅱ

永井彰教授

理論社会学特論

理論社会学研究演習Ⅰ～Ⅱ

社会学調査実習Ⅰ～Ⅱ

下夷美幸教授

社会変動学特論

社会変動学研究演習Ⅰ～Ⅳ

木村雅史助教

社会学調査実習Ⅰ～Ⅱ

2 学部授業担当

正村俊之教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学各論

社会学実習

長谷川公一教授

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

永井彰教授

社会学概論

社会学各論

社会学実習

下夷美幸教授

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

木村雅史助教

社会学基礎演習

社会学実習

3 共通科目・全学科目授業担当

下夷美幸教授

社会学

(2) 他大学への出講 (2009～2013 年度)

吉原直樹 教授

横浜市立大学 (2001 年度～現在)

正村俊之 教授

宮城学院女子大学, 2012 年度

放送大学, 2012～2013 年度

長谷川公一 教授

放送大学 (2011 年度)

神戸大学 (2011 年度)

宮城学院女子大学（2012 年度）

下夷美幸 教授

お茶の水女子大学 生活科学部（2010 年度）

清水晋作 助教

東北文化学園大学（2004 年度～2009 年度）

大崎市医師会附属高等看護学校（2006 年度～2009 年度）

石巻専修大学（2006 年度～現在）

尚綱学院大学（2007 年度～2009 年度）

東北薬科大学（2010 年度）

木村雅史 助教

仙台医療センター助産看護学科（2008 年度～2011 年度）

大崎市医師会附属高等看護学校（2010 年度）

東北文化学園大学（2011 年度）

東北工業大学（2011 年度～）